

4月11日
立ち上がった二人の男
マルコ福音書2章1～17節

2:1 数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが知れ渡った。

2:2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。

2:3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかっがれて、みもとに連れて来られた。

2:4 群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。

2:5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。

2:6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。

2:7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」

2:8 彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐにご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそんな理屈を言っているのか。」

2:9 中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。

2:10 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言ってから、中風の人に、

2:11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。

2:12 すると彼は起き上がり、すぐに床を取り上げて、みなを見ている前を出て行った。それでみなの方がすっかり驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない」と言って神をあがめた。

2:13 イエスはまた湖のほとりに出て行かれた。すると群衆がみな、みもとにやって来たので、彼らに教えられた。

2:14 イエスは、道を通りながら、アルパヨの子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさい」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。

2:15 それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜい、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜいいて、イエスに従っていたのである。

2:16 パリサイ派の律法学者たちは、イエスが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事をするのですか。」

2:17 イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

今日はイースターの翌週の礼拝。

イエス様は復活の後、40日、弟子たちにお会いになって語って下さいました。

イースターの恵みの余韻に浸り

イースターの恵みを今一度味わっておきたいと思
います。

マルコ福音書はマルコが書きました。
マルコ自身が体験したこと、目撃したイエス様の
御業、マルコのお母さまから
聞いたこと、
ペテロ、ヨハネから聞いたことを、
イエス様の十字架と復活を
体験した後のマルコがこの福音書を
書き上げています。

十字架と復活を体験してからマルコは
イエス様の生涯を振り返り福音書を
書き上げています。

イエス様の言葉や奇跡を思い返しなが
らこんな意味があったのかと
感激して書いています。

牧師になって40年余りになります。40年余り前、牧師を始めたころ、小さな長屋を借りて看板をだし、十字架を掲げ、8畳の畳の部屋で伝道をしていました。その間、戦いがありましたが、一人救われ二人救われ、洗礼式を行い、キャンプやコンサート、結婚式、会堂建設と懸命な歩みをしてきました。それらを振り返って見ると神様はこんな風に導いてくださったのか、神様のご支配、導き、力は素晴らしいと感じます。

マルコもそんな風に復活されたイエス様に出会い、復活の力を受けてイエス様の語られたことやなされた御業の意味を改めてはっきりと理解して福音書を書いています。

マルコ2章には、中風の男と4人の男たちの友情と信仰の物語が書かれています。

これはマタイ、マルコ、ルカに書かれています。またこの中風の男の癒しと、アルパヨの子レビ(マタイ)の救いの記事が、三つの福音書に同じように並んで書かれています。

12節では「彼は起き上がり」と書いてあり、（新改訳2017では立ち上がり）14節でアルパヨの子レビは立ち上がって従った、と書かれています。12節の起き上がると14節の立ち上がるは、日本語や英語では同じことばget upですが原語のギリシャ語ではわざわざ違う言葉が使われています。二人の立ち上がり物語です。肉体的に癒されて立ち上がった人、霊的に座り込んでいた、罪の中でへたり込んでいた人が、罪と決別して立ち上った物語が、連動しています。

中風の男は肉体が不自由だけでなく、心もなえてしまっていました。動かないからだを情けなく思ったり、動ける人を妬んだり、病気したことを後悔したり、自分の否定的な思いをコントロールできない状態にいました。それは心だけでなく、ことばも否定的な言葉、批判的な言葉となり、やめようと思ってもやめられない、そんな罪の中にいながらイエス様と出会ったなら、きっと癒される

変えられるという友に励まされ
運ばれてイエス様の所に来ました。

こんな人が起こされるように、
まず私たちが希望と信仰に立って
歩みましょう。
このためにいくつかのことを学びましょう。

①四人の原理。チームの原理。

ひとりでは出来ないことが4人でならできる。4人の友のように、人をイエス様のもとに連れてくる時、ひとりでは出来なくても4人ならできる。チーム伝道。伝道は一人ではない。イエス様は12弟子も二人一組で伝道に送られた。4人が心を合わせて一人の男をかついでイエス様の所に連れて行った4人の信仰。

病人の訪問。誰かといっしょに行く。おしゃべりが上手な人。必要な話。楽しい笑い。静かに聞き役。車の運転。お菓子を持っていく。

伝道はチームで行うこと。中風の友をかついで、カペナウムのイエスの所にまで来ました。

4人と中風の男の友情、愛、信仰。イエス様の所に行けば癒されるという信仰がありました。

重い男を運ぶ熱心、愛。ひとりの男を4人でかつぐ。60キロの人なら一人の荷重は15キロ。一人でできなくても4人ならできることがあります。

人をイエス様に連れてくるのに、重い者を持たなければならない。体重だけでなく問題が重いかもしれません。私たちの気持ちも重くなることもあります。4人の友の励ましは素晴らしい。

②板の原理。

人を板に乗せて運ぶ。求道者を何かに乗せてく

る。中風の人、癒しというニーズ。

料理。英語。音楽。ゲーム。スポーツ。・・

その人のニーズを知ってイエス様の所に

連れてくる。友情と言う必要があった。

誰かを集会に誘う。車で迎えに行く、

送ってあげる。

電話をかける。メールで誘う。手紙を書く。

基督教のCDを送る。DVDを送る。

何か板が必要です。

③別の入り口の原則。
入り口がふさがっている時、
あきらめない。
別の入り口を捜す。
あきらめない信仰。

家はいっぱいであった。けれどもあきらめない信仰。知恵を出してイエス様に近づける。屋根を壊してでもイエス様にあわせたい熱心。

天のまどが開いている。入り口から入れない。裏からも入れない。天上から入ろうとしました。そして成功しました。音楽で誘う。食事会で誘う。講演会で誘う。スポーツの伝道で誘う。釣りの伝道で誘う。心の扉は一つではない。どこか開いている扉を捜す信仰。

2:11 「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われた。

中風の人が立ち上がりました。今までの無力感、挫折感、敗北感、怒り、ねたみ、恨み、後悔の渦巻く世界から立ち上がって、癒され、心も癒されて、神の子としての人生を歩み始めました。まさに復活の力で立ち上がり、歩んでいます。それを聞いて、マタイも立ち上がって、イエス様に従って行きました。

マタイは中風ではなかった。しかし、同じように立ち上がって、イエス様に従った。

マルコ2章12節「彼は起き上がり」エゲイレというギリシャ語、普通に立つ、という言葉。

14節は「立ち上がる」アナスタシス、マタイの場合は復活の言葉が使われています。

収税所にすわっていたマタイは、罪の世界貪欲や強奪、金銭欲にどっぷりとすわりこんでいました。

からだは元気ですが、中風のように、自分がコントロールできなかった。欲望に負ける。正しいことは手がマヒしているように出来ない。不正、罪をやめようと思っても自分をコントロールが出来ない。辞めようと思ってもやめられない。善をしようにも善が出来ない、まさに霊的な中風の人でした。

彼は、「わたしについて来なさい。」というイエス様の声を聴いて立ち上がって従いました。

マタイは、イエス様のことばを聞き、受け入れ、イエス様と一つになることにより、イエス様の復活の力をいただいて、立ち上がって行きました。

私たちも、罪の中に沈んで、死んで、イエス様に起こしていただいて、復活のいのちに与かって、信仰によって立ち上がってきました。

イエス様は私たちを死者の中からよみがえらせてくださいました。罪の中に死んでいた私たちを生かし、立たせてくださったのです。

8:11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

祈り

主イエス様、私たちはかつては、罪の中に死んで、生ける屍のような人生を送っていました。自分の足で立って善をすることもできず、罪の世界から立ち上がることのできないものでした。わたしについて来なさい、わたしを信じなさいという招きのお言葉を信じた時に、立つ力が与えられて、かつての罪の無力な人生から立って起き上がって歩むことができるように導いて下さり感謝します。このイエス様の復活の力に多くの方があずかることができるように私たちを用いてください。

主イエス様の御名によって、アーメン。